

受賞記念講演：「グローバル化と多様性—空間経済学の視点から—」

経済・社会科学賞 / 藤田 昌久 (甲南大学特別客員教授)

近年におけるグローバル経済の進展の背景には、輸送技術と情報通信技術の飛躍的発展があります。そのおかげで、ヒト・モノ・カネ・情報の輸送費が大幅に低減されました。そのため生産・交易・投資のグローバル化が急速に進展し、その一方で、経済活動の局地化が起りました。これらが密なネットワークで結ばれて、現代の経済社会システムは地球規模で変革しています。

21世紀は「アジアの世紀」といわれています。それを実現するには、先端的な生産拠点を形成すると同時に、金融市場・資産市場も含めて高品質の市場を構築し、東アジア全体が世界の中で知識創造社会の中心になっていく必要があります。そしてそのためには、平和を維持し、国際協調をし、多様性を促進しながら、経済統合を進めていくことが不可欠と考えます。アジアは非常に多様性に富む地域であり、この多様性は、知識創造社会の育成にとって大きな潜在的資源となります。これを活かしながら、東アジアは大きく発展し、次のステージに進むべきだと思います。

ただ、現在、グローバル化は色々な試練に直面しています。イギリスのEU離脱とトランプ氏のアメリカ大統領への選出は、地域統合とグローバル化にとって悪いニュースでした。また、トランプ氏はTPPからの離脱を宣言しています。TPPの実現のためには、批准国がグローバル化と地域統合の重要性についてアメリカを根気強く説得する一方で、ASEANを中心に地域統合に向けて実際にできることを進め、東アジア地域包括的経済連携(RCEP)を推進することが重要であり、RCEPが実現しそうになれば、おそらくTPPも蘇ってくるものと考えます。

「多様性の中の統一」は人類の永遠のテーマです。経済活動がグローバル化すると、新たな広域的な政治経済体制を構築し統一を促進することが大きな課題になります。また、グローバルな地理的空間に内包された新たな多様性を新たな力としながら、広域化した地域をさらに高い段階に発展させていくという、より高い次元の課題が浮上します。この挑戦に成功した文明・地域はさらに発展し、失敗すれば衰退しま

す。

物の生産と交易にとっては、空間障壁は少ないほど効率的です。しかし、知識創造社会にとっては、空間障壁に多言語があるおかげで多様な文化が生まれ、大きなプラスの効果をもたらす可能性があります。知識創造社会における根源的資源は一人一人の「脳力」であり、社会全体における「脳力」の多様性が相乗効果を生んで創造力を強くするのです。

知の共同作業においては「知の多様性」が基本的に不可欠で、その共同作業が生産的であるためには、「共通知識」とそれぞれの「固有知識」とが、うまくバランスを取ることが非常に重要です。しかし、それを同一の者で長期的に行くと共通知識がどんどん肥大化し、相対的に知の生産性は低くなります。これをいかに避けるべきかが大きな課題であり、それは小人数間だけではなく、大きな社会全体についても言えることです。例えば、東京への一極集中が進んだ現代日本において、経済成長の勢いがあまりない根本的な原因はここにあると思います。

旧約聖書を基にした「バベルの塔の物語」というものがあります。単一言語・単一地域のエンパイアを築き高慢になった人類が、神に挑戦して天に届くほどの塔を建設し始め、それに怒った神が、罰として多数の言語を導入し、それぞれの言語ごとに人類を世界に分散させたという話ですが、これは本当に神の罰だったのでしょうか。私は「罰に見せかけた天恵」であったと思います。言語ごとに人類が分散された結果、時間とともに独自の文化が生まれ、地域内・地域間で多様性が増大し、世界全体として知識の増加率が上昇しました。一つのエンパイアが一つの塔を造り世界を制覇するのではなく、それぞれの地域と文化に根ざした、それぞれ独特の塔を造っていく「百塔斉花」たるのがすばらしいのです。われわれ人間は、地球全体の、非常に多様性に富む環境の中で生かされているのであり、それに対し敬意を払いながら、多様性の中で発展していくべきだと思います。United in diversity. Yes, we can!

